

大学生の困り感(学習場面)

- 履修の方法がわかりません
- 教室がどこかわかりません
- 大教室だと集中して講義が聞けません(視線・音)
- ノートをうまくとれません(書字・整理)
- どこが大切なところかわかりません(焦点化・集中力)
- レポート課題を提出できません(期日・内容・書式・整理)
- 表現がうまくできません(書字・作文・発表)
- 遅刻や欠席をしてしまいます
- グループ活動が苦手です
- 何度も単位を落としてしまいます

大学生の困り感(大学生活)

- 掲示板の見方がわかりません
- 誰に聞けばいいのかわかりません
- メールで来る情報がうまく活用できません
- どこで食べたらいいかわかりません
- 空き時間にどこで何をしたらいいかわかりません
- サークルでの人付き合いが苦手です
- 将来したいことが見つかりません
- ～以外の職業は考えられません
- 面接試験がうまくいきません

困り感をもっている学生の中には、発達障害のある学生がいるかもしれません

発達障がいとは

- 狭義には、学習障害(LD)、注意欠陥/多動性障害(ADHD)、高機能自閉症(HFA)を指します。
 - ・アスペルガー障害、自閉症スペクトラム障害(ASD)、広汎性発達障害(PDD)は、高機能自閉症と同じなまを表す言葉です。
- 2005年施行の発達障害者支援法により、**大学での支援が求められています。**
 - ・センター試験での特別受験
 - ・富山大学などでの取り組み
- 近い将来、法制度がさらに整備されます。
 - ・障害者権利条約、障害者差別禁止法など

学習障害の定義

学習障害とは、基本的には全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態を指すものである。

学習障害は、その原因として、中枢神経系に何らかの機能障害があると推定されるが、視覚障害、聴覚障害、知的障害、情緒障害などの障害や、環境的な要因が直接の原因となるものではない(文部省, 1999)。

学習障害(LD)

- 聴覚、視知覚、注意、記憶、メタ認知といった認知過程に特異な障害があると推測される
- 原因不明
 - ・低出生体重児、染色体異常(遺伝子)、脳損傷、妊娠中の母親の飲酒・喫煙などによる脳機能障害
- 医学的には学齢期の児童の約5%にLDがあると推定される
- ADHD、てんかん、チック、アレルギー性疾患、気分障害(うつ)などを合併することがある

注意欠陥多動性障害の定義

ADHD(注意欠陥多動性障害)とは、年齢あるいは発達に不釣り合いな注意力、及び/又は衝動性、多動性を特徴とする行動の障害で、社会的な活動や学業の機能に支障をきたすものである。また、7歳以前に現れ、その状態が維持し、中枢神経系に何らかの要因による機能不全があると推定される(文部科学省, 2003)。

注意欠陥多動性障害(AD/HD)

- 医学的には2~7%(小児の3%前後)の出現率であり、男子に3~4倍多くみられる。
- 原因不明
 - ・てんかん、低出生体重児、甲状腺ホルモン異常などによる脳機能障害
- 遺伝的要因の関与
 - ・ただし、「遺伝病」ではなく、症状の一部または全部が伝わる遺伝様式
- 薬物療法が効果的な場合がある
 - ・メチルフェニデート(コンサータ)の使用
 - ・副作用に注意
- 合併症・併存症
 - ・反抗挑戦性障害、行為障害、適応障害(不登校など)、不安障害、気分障害(うつ)、チック、てんかん、発達性言語障害、LD、発達性強調運動障害、

高機能自閉症の定義

高機能自閉症とは、3歳位までに現れ、他人との**社会的関係の形成の困難さ、言葉の発達の遅れ**、興味や関心が狭く特定のものに**こだわる**ことを特徴とする行動の障害である自閉症のうち、**知的発達の遅れを伴わないもの**をいう。また、**中枢神経系に何らかの要因による機能不全があると推定される**(文部科学省, 2003)。

アスペルガー障害

- 知的発達の遅れを伴わず、かつ、自閉症の特徴のうちのことばの発達の遅れを伴わないもの
 - ・ただし、ことばの使用や理解には、障害を伴うことが多い。
 - ・幼児期に著しい言語的な遅れがないとされるが、高機能自閉症も、ことばの遅れは徐々に改善されるため、年齢が増すほど高機能自閉症とアスペルガー障害との差が目立たなくなる。そのため、高機能自閉症とアスペルガー障害をわけないとする説もある。

高機能自閉症(HFA)・アスペルガー障害

- 1000人に**1~2人**の発生率。ただし、広汎性発達障害で考えると1000人に**10~17人**。
- 男女比は3~5:1で**男子**に多い
- 脳の器質的・機能的障害であるが、正確な原因は不明
- 合併症
 - ・五感の**過敏性**、偏食や衣服への**こだわり**などの生活習慣、**パニック**・衝動性など行動面の問題、**対人トラブル**、学習面の問題、トラウマ体験(**フラッシュバック**)、精神・神経疾患(てんかんやチック障害など)

特別支援教育で行っていること

- 2007年度から「特別支援教育」となり、通常学級でも支援が開始
 - ・特別支援学校・特別支援学級・通級
 - ・幼小中高の通常学級での支援
- 特別支援教育コーディネーターによる学校全体支援体制
- 「個別の指導計画」によるきめ細かな個別的対応
- 「個別の教育支援計画」による、関係機関の連携
 - ・一貫性と継続性
 - ・個別の移行支援計画による引き継ぎ

特別支援教育と大学での支援

- 知的障害がない発達障害学生は大学にもっと入ってくる!?
 - ・センター試験、AO入試、特別受験など
- 個別の移行支援計画や個別の教育支援計画を持ってやってくる学生が増える
 - ・特別支援教育コーディネーターとの連携
 - ・関係諸機関との連携
- 「合理的配慮」(障害者の権利条約)への対応
 - ・学内支援体制整備

大学入試センター試験における配慮

- 2011年1月より、発達障害のある受験生に対して、特別措置をとることになった。

受験特別措置申請(秋)

- 医師の診断書
- 学校からの意見書

大学入試センターで検討

試験時間を通常の1.3倍に

チェック解答

文字を拡大した問題用紙の使用

別室や配慮した試験室での受験

発達障害学生の現状

- 大学、短大、高等専門学校における障害学生数は、8,810(前年度7,103)人であり、これは、全学生に対して0.27(前0.22)%であった。
- うち、**発達障害(診断書有)**が1,064(前569)人であり、障害種別構成比としては12.1(前8.0)%にあたる。
 - @大学 LD71人、ADHD98人、HFA696人
- 発達障害学生がいると回答した学校は324(前226)校であった。
- このうち、支援を受けている発達障害学生(診断書有)は811(前443)人である。
- 診断書がないが、発達障害があることが推測されることにより、実際に教育上の配慮を行っている学生は、1,944(前809)人である。
- 受験の特別措置を受けた発達障害学生は16人であった。

日本学生支援機構(2011)平成22年度調査より

発達障害学生支援状況

支援内容	実施校数	実施率
休憩室の確保	81	32.9%
実技・実習配慮	70	28.5%
注意事項等文書伝達	55	22.4%
教室内座席配慮	50	11.1%
保護者との連携	344	79.6%
学習指導(履修方法、学習方法等)	305	70.6%
社会的スキル指導(対人関係、自己管理等)	282	65.3%
進路・就職指導	245	56.7%

*複数回答あり。*発達障害診断書無・配慮有を含む。*246校からの回答

なぜ、障害が気付かれにくいのか

- 脳の機能障害であるため
 - 親の育て方や、指導上の問題が原因ではありません！！
 - ただし、**二次障害として**、叱り方やことばかけのまずさから、自尊心が低下していたり、うつ状態などになっていることがあります
- 個性として流されがちのため
 - 人と話すのが苦手？
 - 几帳面？
 - 柔軟性に乏しい？
 - おおざっぱ？
 - 忘れっぽい？

環境によってこうした個性も「障害」となる。
e.g. 困り感が大きいシステムが合わない支援が得られない

二次障害

障害そのものが原因ではなく、不適切な関わりやことばかけが長期にわたって行われた場合に、その子どもが引き起こす「問題行動」や困難な状態のこと

わかり方の違う子どもは、小さいころから、障害が理解されずに家族や先生から叱られたり、誤解されたりすることが多い。これが続くと、**自分に自信がなくなる、苦手意識が強くなる、孤立する**という状況に陥る。

なぜ、障害が気付かれにくいのか

- 外から見えにくく、できることも多いため
 - まさか、〇〇大の学生さんが！？(高い学力)
 - できることとできないことの差が大きい
 - なんとかやっつけていける間はよいが、失敗したときの落ち込みが激しい(⇒引きこもり)
- 多くの学生は自分が発達障害であると気付いてない！！
 - 家族(や教員)も同様に気付いていない
 - 6.3% ⇒2.2% ⇒0.03% ??
 - 面倒見のいい友だちがいれば、なんとかやっつけていけるが、失敗やトラブルが続いて敬遠されると孤立しがち

理解の視点

大学生の困り感と背景にある障害特性

- 履修時の困難さ
 - 情報の取捨選択が苦手(選択的注意や図地の弁別)
 - こだわりや思い込みの強さ(ASD)
 - 見通しの甘さ=実行機能の弱さ(ADHD)
 - ルールの理解の弱さ
 - 友だちと異なる時間割へのとまどい(高校とは違うルール)
- 教室がどこかわかりません
 - 空間認知の弱さ
 - 変更への対応が困難(シングルフォーカス; ASD)
- 掲示板の見方がわかりません
 - 選択的注意の弱さ(情報・空間ともに)
 - 見ることを忘れる(不注意・他のことに没頭)
- メールで来る情報がうまく活用できません
 - 情報の取捨選択が苦手

理解の視点

大学生の困り感と背景にある障害特性

- 誰に聞けばいいのかわかりません
 - 読むことの苦しさ(視覚的情報処理の弱さ/注意の持続力のなさ)
 - 一度に言われると混乱(オリエンテーションで一度言われただけではわからない)
- 人の目が気になります・(様々な)音が気になります
 - 感覚過敏(ASD)
 - 聴覚的情報処理の弱さ(選択的注意の弱さ)
- サークルでの人付き合いが苦手です
 - 見えないルールがわからない(敬語、座る場所、“気を使う”こと)
 - コミュニケーションの苦しさ(比喩的表現の理解が困難・衝動性)

理解の視点

大学生の困り感と背景にある障害特性

- どこで食べたらいいのかわかりません
- 空き時間にどこで何をしたらいいのかわかりません
 - 決まったことならできるが、自由度が高いと戸惑う(ASD)
 - 状況判断が苦手、してもいいこと、してはいけないことがわからない
- 尋ねたのにちゃんと教えてくれなかったんです
 - 相手の立場で考えることが苦手(想像性の障害)
 - 相手は知らない情報なのに、知っていると思いこんでいる
 - 順序立てて話せない(理由を言わずに、「履修登録してください」)
- 何がいけないのかわからない/求められていることがわからない
 - 場面理解が苦手
 - 想像性の障害(興味の限定・こだわり)

理解の視点

大学生の困り感と背景にある障害特性

- 書類提出ができない・常に遅れる
 - 見通しの甘さ・締切を忘れる(実行機能障害; ADHD)
 - 優先順位をつけられない(今、何が重要かわからない)
 - 書けない部分がある(書字障害・人に聞けない、完璧主義)
 - 締切日や提出先が明確でなかった(書けたら持つてくるという暗黙のルールがわからない)
- 大学にこられない
 - 一度の失敗から立ち直れない(こだわり、自尊心の低さ)
 - 生活リズムが崩れている(過集中による昼夜逆転生活)
- 将来したいことが見つかりません
 - 想像性の障害
 - これまでの失敗経験からくる自信のなさ
 - モデル不在からくる不安
- ~以外の職業は考えられません
 - 思い込みの激しさや、柔軟性の欠如(固執)

発達障害学生への支援(基本姿勢)

- 診断は医師の仕事。障害の有無にこだわらず、できることから支援を始める
 - 甘えや怠けではない、とらえて授業や関わり方で工夫をしてみる
 - 「甘え」や「怠け」も障害からくる弱さの可能性が高い
- 何に困っていて、どうしてほしいのかを尋ねる
 - 話を聞きながら、メモをして、「こういうことですね」と確認すると効果的
 - すぐに時間が取れない場合は、その場で時間と場所を決めるようにする
- 具体的にどうすればいいのかを伝えてあげる。メモ書きを渡すとさらに効果的
 - なぜなら一度に言われると覚えられないから
 - 経験が生かされにくい(前にしたこと、友だちがしたことが今の自分にあてはめられない)

発達障害学生への支援(事務・生活)

- 選択肢を与えたり、違う方法も可能なことを伝える
 - 異なる視点からもとらえられることを教える
 - 情報は複数の方法で提供する(たとえば、紙媒体と電子文書を用意。WebからDLできるなど)
- 掲示板の工夫
 - 自分に関係していることであるとかわかるような情報発信の仕方をする(車いすマークを変える)
 - 文字の色を変えたり、コーナーを明確にするなど、視覚的工夫をする
 - できる限り、学内で統一したルールを作る(赤は最重要、場所は青色など)
 - 必要な情報は、Web発信か、文書を携帯できるようにする(学内見取り図など)
- できているところをほめて、次につながるようにしてあげる(プレッシャーにならない程度に)
 - 「期限内に提出してくれたから助かったわ。今度も頼むわね」
 - 「ここ、きれいに書けてるから、こっちはそんな風にお願いわね」

発達障害学生への支援(学習)

- 授業のユニバーサルデザイン化を図る
 - すべての学生にとってわかりやすい授業となる
 - 特別な支援を目立たなくし、プライドにも配慮できる
- レポートや卒業課題への配慮
 - テーマの理解度(何をどこまで求めているのか)を確かめる
 - こまめにチェックする(×「2週間後のゼミで確認」)
 - 計画化(調べ方を含む)の支援を行う
 - コーチングの手法を用いると効果的
- 教室環境の整備
 - 空調やプロジェクターなどの音を減らせるといいですね
 - 出入り可能な教室を選んであげる

参考

ユニバーサルデザイン(UD)教育

- 資料を必ず配布(事前・事後)
- 複数のワークシートを用意(穴あき、拡大、カラー)
- ICレコーダー、パソコン、デジカメの持ち込みを認める
- 適度な活動時間、多様な活動内容
- 活動への見通し(シラバスの確認、授業の流れ、手本)
- 「聴覚優位」「視覚優位」への配慮
 - 短く、はっきり、繰り返し
 - 大きく、見やすく、具体的
- 評価の工夫
 - 複数課題(レポート、発表、筆記試験)
 - 基準を明確に示す(出席とは?)
- 意識面のUD
 - どうしてほしいのかな?

就職支援(キャリア教育)

- もともと見通しが苦手
 - 絶対これしかない! OR 壮大な人生絵巻
- 口達者のため、わかっていると誤解されがち
 - 知識と実態(実践)は異なる
- 自己理解につながる粘り強い支援を
 - 職業適性やチェックリストによる得意不得意分野の共通理解
 - その職業についてプラス・マイナス両面を伝える(見学や実習(アルバイト)は効果的)
 - 何のために働くかの確認(お金? やりがい)
- 練習は大切!
 - ブースでの尋ね方、面接試験、筆記試験
 - 科目の絞り込み(無駄に多くの資格を狙うことも)
- 障害をオープンにした方が就職・継続就労が可能な場合も多い

発達障害学生への支援(体制)

- 教職員一人で抱え込まず、誰かに相談してください。
 - 発達障害学生への支援は、長期戦になります。一人で抱え込むと、自分が大変なだけでなく、異動のときに学生も困ります
 - 支援システムが必要です
 - 試験等への配慮
 - 総合窓口の設定(教職員への周知の方法、支援の一貫性)
- 将来のために自己理解・受容を促す教育をめざしてください。
 - セルフ・アドボカシー・スキル形成
 - 自分の(障害)特性を理解した上で人に説明し、自分にとって必要な支援を求められる力
 - 初年次教育とキャリア教育
 - 自己理解の状況によって障害者枠での就労も可能に

見方を変えて、光っているところを伸ばそう!

- 「ひとつのことに集中できない」とは
 - ＝「多くのことに興味を持てる、同時にいくつもの仕事をこなせる」
- 衝動的とは
 - ＝実行力と行動力がある
- 自分は「できる!」という自信と、誰かが「わかってくれる!」という安心感が、苦手なことでもがんばれる力となる
- 発達障害学生への支援は、みんなにとっても助かる支援
- 個性を生かせばあなたも有名人!?



参考文献

- 福田真也(2010)『Q&A大学生のアスペルガー症候群:理解と支援を進めるためのガイドブック』明石書店
- 古荘純一著(2006)『軽度発達障害と思春期』明石書店
- 片岡美華(2010)『障害学生のためのユニバーサルデザイン教育システム構築における比較研究:平成19・20年度科学研究費補助金(若手研究(スタートアップ))研究成果報告書』
- 片岡美華(2009)『発達障害のある大学生等への支援モデル構築に関する比較教育的研究:平成19・20年度科学研究費補助金(若手研究(スタートアップ))研究成果報告書』
- 日本学生支援機構(2009)『教職員のための障害学生就学支援ガイド』
- 日本学生支援機構(2011)『平成22年度(2010年度)大学、短期大学及び高等専門学校における障害のある学生の修学支援に関する実態調査結果報告書』
- 大沼直樹・吉利宗久共編著(2011)『特別支援教育の基礎と動向:新しい障害児教育のかたち(改訂版)』培風館
- 太田正巳・小谷裕美編著(2009)『大学・高校のLD・AD/HD・高機能自閉症の支援のためのヒント集:あなたが明日からできること』黎明書房
- 佐々木正美・梅永雄二(2010)『大学生の発達障害』講談社
- 上野一彦・花熊暁編著(2006)『軽度発達障害の教育』日本文化科学社